



【痛みと哀しみを乗り越え祝福される家庭】

聖書本文:ルツ記 1章11-18節/ 暗唱聖句:ルツ記2章12節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの神の家族のみなさん、母の感謝主日を迎えて、いつも家族と子どもたちのため、主の教会の家族のために犠牲を払い、献身的に仕えて下さっているお母さん方々の愛の労苦に心からの感謝と尊敬を表します。

お母さん方々の上に神の大いなる慰めと豊か恵みと祝福が今年も満ち溢れますように祝福を祈ります。

5月はGW期間、子どもの日、母の日など家庭の月だとも呼ばれています。家庭は創造主の神様が人に与えて下さった一番最高の祝福であり、プレゼントであるでしょう。ところが、今日の多くの家庭がいろんな問題によって悩んだり、苦しんだり、崩れてしまっているのを我々はよく知っています。みなさんの家庭は大丈夫ですか。どうすれば、混乱な時代、我が家が、家族、家庭が守られ、さらに祝福されて行けるでしょうか。

今日、聖書の本文には本当に貧しかった家庭、そして数えきれないほどの悲劇と、悲しみを経験したある家庭の母と女たちの話が記録されています。貧しい中で、悲劇を経験し、外見的にはとっても不幸に見えましたが、けっして不幸ではなかったルツの家庭！この家庭は士師(さばきつかさ)時代、つまり、イスラエルの国にまだ正式に王もいなかったため、それぞれ自分の思いのまま行っていた暗い、混乱の時期でした。経済的には日照り(ひでり;凶年)の続きのため農作物(のうさくぶつ)の小作(こさく)が出来ず、食べ物をさがすために家族みな自分たちの故郷であるユダ・ベツレヘムを捨てて異邦の地モアブと言うところまで行かねばならぬ時代を送っていたわけです。家庭的には故郷を離れ遠い新しい他国にまで来て、頑張って生きようとしたのですが、ナオミというお母さんはなぜか自分の夫、そして結婚していた二人の息子までそこで亡くす悲しみを経験しました。家庭の男性たちが全部亡くなるきわめて耐え難い苦しい経験をされたのです。経済的貧しさも、政治的に困ったことよりも、何より愛した主人や頼りになっていた息子たちがみんな先に召されてしまったため治せない大きな傷が残っている悲劇の家庭となったのに間違いありません。どう見ても、幸せな家庭とは全然遠い家庭だったでしょう。もう家で残りは三人のやもめになったしゅうとめナオミとよめであったルツともう一人のよめオルパが住んでいた寂しい家庭でした。しかし、この家庭は悲しみや苦しみがあってもそれを乗り越えて祝福された家庭として代々、伝えられて来ています。

今日の我々の質問はこれではないでしょうか。きわめてひどい悲しみと痛みを負っているなら、傷だらけの不幸な家庭となるはずなのに、いったい何によってこの家庭は祝福された家庭として変えられたのでしょうか。

①一つ目の理由は、この家庭はまず互いを理解し合うことがあった家庭だったからです。

大切な主人と息子たちを他国で失ったしゅうとめナオミは故郷であるユダの地に神様がかえりみて下さって、凶作(きょうさく)の時が終わったという知らせを聞きました。寂しい他国の生活に、さらに夫と二人の息子まで失ってしまい、疲れ果てていたナオミは故郷に帰ろうと決心します。この時、残されていたふたりのよめたちはどうすべきかが問題でした。二人のよめたちは子どももなく、イスラエル人ではなく、神様を知らず、信じていなかったそのモアブ出身の女たちだったからです。

ルツ記1章6節以下に記録されている注目すべき場面を見て見てください。

しゅうとめナオミはよめたちの孤独を理解していた母でした。私もやもめとして一人で生きて来ているのだから、あんたたちもこれから同じくずっと一人だけで生きるべきだという固執(こじつ)のあるお母さんではありませんでした。

他国のよめがしゅうとめの国イスラエルに来て生活すると、また逆に新たな、外国の生活にともなう寂しさと、苦しみをナオミというお母さんはよく理解していました。“私もそのような苦しみを体験したのだから、あなたも味わうべきだ。”つまり、“私がこうだったからあなたたちもこうやるべき”のような思いをナオミは自分のよめたちに強制したり、自分の家庭の不幸と悲しみをよめたちにも続けて押し付けたり、神を知らないよめたちが我が家に入ってきたからこうなったと叫びたりしていません。むしろ、ナオミはイスラエルに戻る前に“あなたがたは、それぞれの自分の母の家へ帰りなさい。行って新しく家庭を作って新しく人生を送りなさい。”と心から若い嫁たちを理解し、主の恵みと祝福を望みながら自分と同じ苦勞をしないように配慮していた素晴らしいお母さんの模範をみることができます。

本文の13節をみてください。“主の御手が私に下ったのですから。”この話はどういう意味ですか。不幸にあったこの家庭のよめたちに“よめたちよ。我が家のいまの不幸は私のせいで、あなたたちのせいでは決してないのよ。”という意味でしょう。

神様を信じなかった異邦の国のよめたちのために神様から罰せられたと言えるはずなのに、ナオミはこの家庭の不幸と傷の原因は自分にあり、神様が自分を罰せられたと言っているのです。

素晴らしいお母さんの像をみているようです。しかし、しゅうとめだけではありません。よめたちのすばらしさをも見て見てください。

8節以下のナオミの言葉によめたちは“いいえ。私たちはお母さんと一緒に母さんの国に帰ります(10節)。”とこたえます。お母さんと一緒にすると涙を流しながら、告白するよめたちの美しい姿をみてみてください。彼女らも自分たちの夫と姑に心をつくして仕えたやさしい女たちであることが分かります。

私たちはこの家庭を“お互いに向かって理解の窓が開いていた家庭”だと言えると思います。愛する信仰の家族のみなさん、現代

の家庭の一番の問題と悲劇は**会話の断絶、理解の断絶**にあると言えるのではないのでしょうか。同じ屋根(やね)の下で、同じ生活の空間に住んでいる家族なんだから自動的に理解できるとは言えません。お互い理解しようとする努力なしにはできません。心を開いた本音(ほんね)トークが必要です。身近にいる関係だからこそ正直な分ち合いが必要でしょう。**みなさんの家ではどれぐらい会話があり、どれだけ理解しあって生活をしていますか。**

姑が理解できないと、夫が、子どもが、嫁が、親がそれぞれ自分たちを理解してくれないし、自分でも理解できないと言っています。家族関係なのにもかかわらず、私たちはまったく理解できないときどき口にしめます。しかし、この時間、生きておられる神様の御前で正直な告白として、自分が理解できないのではなく、理解しようとしめないことはないのでしょうか。もしかして自分が理解してみようと心かけていないのではなかったでしょうか。

みなさん! 理解というのは本来相手の立場の下に立って考えるという意味から派生(はせい)した単語です。

ですから妻は夫の立場で考えてみる必要があります。夫は妻の立場で考えてみる必要があります。親は子供の立場で、子どもは親の気持ちを理解しようとしなければなりません。

幸せな家庭はお互いがお互いを理解しようとする家庭だと信じます。 幸せな教会も同じく(大人は子どもたちを、夫たちは妻たちを、若い青年たちは年寄りの方々を)理解し合う教会、幸福な社会は理解し合える社会ではないのでしょうか。

自分の思う通り、願い通りにならないと叫んでいるため、家族が傷つき、教会が分裂され分離を経験します。みなさんはどれだけ自ら理解しようとしていますか。不幸だった家庭、しかし、不幸ではなくむしろ、すばらしい幸福だったこのナオミとルツの家庭はお互いをまず理解しようとする土台がありました。この理解があったからこそ、苦しみと悲しみの中でも乗り越えられ、幸福な家庭になることができたのです。

②二つ目に、この家庭はともにする家庭でした。

16節でルツは続けてこのように告白します。“**お母さんが住まれるところに私も住みます。**”

みなさん。これを単に寝るところだけを同じくすることばで理解してはいけません。

一緒に住むということは場所の事だけではなく、人生のすべてをも一緒にするという告白ではないでしょうか。

今日、いろんな事情によって、多くの旦那さんたちや大きくなった子どもたちを見ると、家は泊まりに行く旅館みたいに見えます。家庭内に心や生活の分ち合いがありません。私たちはどれだけ家族との会話、もしくは分ち合いがあるのでしょうか。愛するみなさん! 夫であるみなさんはどれぐらいみなさんの妻と一緒に時間を過ごしていますか。親であるみなさんはどれだけみなさんの子供たちと一緒に時間を過ごしていますか。子どもなるみなさん! みなさんはみなさんの親とどれだけ一緒に時間を過ごしていますか。夫たちは夫なりに、妻たちは妻なりに、子どもたちは子どもなりに、年老いた年配の方々はご自身なりにみんな寂しいとよく訴えている時代になっているのではないのでしょうか。

今日の最大の家庭の問題の発端(ほったん)はりっぱな家は増えて建てられていくっぽうですが、アットホームや良い家庭は減っていく事だと言われています。今日、ナオミにはりっぱな家はありませんでした。嫁であったルツにもりっぱな家はありませんでした。しかし、彼女らには人生の すべてを分ち合える心強い家庭があったのです。

我々はみんな忙しいです。忙しい時代に生きています。そのためお互いに、何を考えているのか会話する時間は週に一回あるかどうかで、一緒に時間を過ごす事もイベントのようになってしまいました。なので、優先順位をしっかりと立てて、計画的に、意図的にこのような家族との大事な時間を持たなければなりません。せっかく家族が集まっても、生活の悩みや、最近の思いなどを分ち合い、励まし合うことなく、むなしくテレビや、携帯に捕らわれてしまう、静か過ぎるこれがいまの我々の家庭の姿ではないでしょうか。家族の会話を回すたった10分の時間も続かなく、テレビの前でぼっと座っているか、コンピューターや携帯の画面に気をとらわれてしまっている、これがまさに存在の家庭で分ち合いに妨げになっている現代家庭の様子でしょう。

ある有名なクリスチャンの敬虔な学者がこのように言いました。

“祈る人がともにとどまることができ、一緒に楽しめる人が一緒にとどまることができる。”

みなさん、祈りはお互いが正直な分ち合いが出来るものであります。みなさんは家族と一緒に祈る時はありますか。家族と一緒に楽しんでいる家族の時間はいつでしょうか。みなさんは当然家族の幸福のため頑張っていると思います。そうであるなら、家族の幸福のためにともに祈ること、ともに楽しめることも大切な要素(ようそ)である事を忘れないようにしましょう。ナオミとルツにはりっぱな家はありませんでしたが、彼女らはともに分ち合い、人生をともにしたいという心があったため悲しみも、苦しみも乗り越えることができたのです。

③三つ目に、この家庭は区分しないで家族の一致を大事にする家庭でした。

聖書の本文16節に嫁であるルツの告白を聞いてみてください。

“あなたの民は私の民、”

ルツは主人の家族と自分の家族を分けようとしませんでした。ルツは主人のお母さんを自分のお母さんとして告白しています。“姑”とつけていませんでした。ルツはご主人のお母さんであるナオミを自分の母として接しているのです。

もし、我々が自分の愛するご主人や妻の親を自分の母、自分の父として受け入れることができるなら、我々の家庭はさらに良いふ

うに変わるでしょう。

私は今日、多くの家庭の悲劇は旦那の家族、妻の家族を分けることから始まると思います。

今日の御言葉として家族は少なくともただみなさんの旦那、妻の両親も含めてであることを忘れてはいけません。こんにちには家族はただ、旦那、妻、子どもだけだと多くの人は線を引いています。そして、“あなたの母、あなたの父、あなたの兄弟!わたしとは関係ない!”当然のように分けてしまいます。聖書にしたがって、自分の旦那を自分の体のように愛するなら、主人が愛している彼の母をも自分のように愛することができます。自分の妻を自分の体のように愛するなら、妻が愛している妻の母を、妻の父も自分の親のように愛することができるのではないのでしょうか。人々が自分で作りあげた絶対わたれないと言っているこの境界線を乗り越えて、あなたの父、あなたの母を自分の父、自分の母として家族として受け入れるべきだと思います。

ある心理学者はこんにち結婚する新婦(しんぷ)たちの心にある一番危険な考えの一つは姑像(しゅうとめぞう)だと指摘します。つまり、多くのよめになる人々の心に姑を自分の敵として警戒し、出来るだけ関わらない方が良いという決め付けてしまう意識がどこかにあるということです。しかし、実際多くのよめたちの不幸は姑から来ることより、姑に対する自分の思いのためであるという指摘は考えて見る必要があると思います。今日、聖書にはルツは若いころに旦那をさきに亡くしたのにもかかわらず、姑に告白している感動的ルツの告白をきいてみてください。“お母さん、あなたの民が私の民です。”

③3番目は、この家庭は信仰と運命をともにする家庭でした。

続いているルツの告白を聞いてみてください。“あなたの神は私の神です。(16節)”

家庭内で信仰の不一致(ふいち)はすべての不一致を意味します。

信仰というのが自分の人生の多くのパズルの中でごく小さいパズルにすぎないなら、信仰は別に一致しなくてもかまわないかも知れません。しかし、みなさんにとって信仰はどんな意味を持っていますか。

真の神を信じるこの信仰を通してまことの自分の自我が作られ、この信仰を通して世を見る世界観や何が大切なのか価値観が変わり、この信仰をとおして自分が何のために生きるのか、頑張るべきなのかその目的や死と永遠の問題に対する備えにまで全部繋がっているなら、自分のすべてではありませんか。

現代の家庭の悲劇の一つは精神的、霊的分離にあります。みなさんは家族が集まると聖書の話、信仰の分ち合いなどをしていますか。今日の説教が長かったとか、教会のだれだれはこうした、ああした。とのネガティブな話しは除いてですね。

みなさんは聖書を通して教えられたり、悟られた話とか、最近祈りが応えられたことなどについて分ち合い、自分の信仰の悩みを打ち明けて夜遅くまで分ち合いながら過ごしたことがありますか。

教会の家族同士でも集まってはショッピングの話、意味の無い話しばかりするなら、残念なことではないでしょうか。

初代教会の信徒たちは毎日集まっても時間が足りなかった見たいです。それで、夜遅くまで一緒に食事しながら、愛するイエス様の証をしたり、お互いのために祈る合い、交わりあう時間を楽しんでいたからでした。

事実嫁であったルツの勇気は今まで自分が信じた宗教ではなく、創造主の真の神を知り、信じた信仰の一致への決断があったため家族がばらばらになりそうな危機の時を乗り越え一つになり、神に祝福されていたのではないのでしょうか。

本来、ルツはモアブの偶像のいろんな神々を信じていた異邦の女でした。しかし、新しい家庭に入り、家族を通して、特に姑ナオミの信仰の姿を通して生きておられるまことの神様の存在とその栄光を経験しながらついに“お母さんの神様は私の神様です。”と告白するようになりました。我々、クリスチャンが愛する家族に与える最大の寄与(きよ)は何だと思いますか。子どもや家族に残せる最高の遺産は何でしょうか。

みなさんにこの胸がいっぱいになる神の恵み、死の向こう側にある永遠の命への確実な信仰の確信と望みが与えられているなら、その信仰を愛する家族にも分ち合い伝えて一緒に神の救いを得、神の恵みを頂けるように分ち合いを証をするべきではないでしょうか。自分たちの愛する子どもたちになくなるお金を残してあげるのではなく、永遠に変わらないこの信仰を遺産として残すべきでしょう。自分が一生涯、頼って来た神様、自分が毎日涙をもって祈って来たその神様を伝える母になろうと決断しようではありませんか。家の家族が夫から息子たちまで次々と倒れなくなる悲しみと衝撃の中で、ナオミはいくらでも信じて来た神を恨んだり、つぶやいたり、がっかりする事が弱い人間として出来るはずなのにも関わらず、どこにもそのような戸惑っている信仰の姿はナオミにはありません。人が生きるのも、死ぬのもすべて全能なる神の御手にある事を素直に認め、信じているしゅうとめナオミの真の信仰の姿を見てルツもきっとお母さんが信じ、仕えている神様は間違いではない真の神として信じようと決心したと思います。

愛するみなさん! 14節をみると結局、二人中もう一人の嫁であるオルパはナオミから離れて、自分の違う方向の道へ離れて行ってしまいます。9節ではルツとオルパ人とも声をあげて泣いていましたが、しばらくしてオルパは姑ナオミに別れの口づけをしています。二人の中ひとは結局祝福される家庭をあきらめて離れてしまいました。しかし、正しい信仰を持ったルツはどんな態度をとりましたか。姑にすがりついて最後まで姑と一緒にしようとしています。この信仰の決断を通してこれから残りの人生すべてを姑とともにしようとしています。“あなたの神は私の神にもなります。”

ともに同じ神様を信じ、ともに祈り、ともに神様の御言葉を分ち合い、ともに神様から与えられた恵みと感謝を分かち合う家庭はどんな試練にあってもそれを乗り越えて祝福される家庭となる事を今日のルツ記の御言葉我々に教えて下さっています。

17節をみてください。嫁ルツはお母さんナオミにこのようにまで告白します。

“あなたの死なれるところで私は死に、そこに葬られたいのです。”

これはまことに家族が一つの運命共同体として受け入れられていることを表しています。

現代家庭の悲劇は運命をともしする意志が少なくなっているということです。もちろん、この話しをお母さんが死ぬとみんなと一緒に死ぬという風に誤解しないで下さい。これは家庭内で**“運命を一緒にしようとする意志”があるのかどうか**ということです。

“主人は主人で私は別です。主人が減ぼされても私だけは生きるべき。親はどうであれ、私は私の道を歩む”これがまさに現代家庭の姿ではありませんか。

信仰の家族のみなさん! 私は信仰の家庭であるなら例え、通帳の口座もそれぞれではなく共同で作って、ともに管理すべきだと思います。別々の通帳を持つという思いの底には、いざ最悪の場合、つまり、離婚の話しがでるとき、みじめな思いをしないためという思いもあるのではないのでしょうか。我々はこのような単純なことから聖書の御言葉を実践しなければならないと信じます。

“それゆえ、男はその父母を離れ、妻と結び合い、二人は一体となるのである。”(創世記2:24)

これを信じるなら一つとして行動してください。

すでに自分たちの中で分けるということは家庭の悲劇の潜在性(せんざいせい)を作っておくことになるからです。

聖書はこう語っています。**“それで、もはや二人ではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。”(マタイ19:5-6)**これをどんな形でも分けようとする行動は認められません。これは聖書の宣言です。

17節の感動的ルツの告白をもう一度覚えながら今日のメッセージを終わらせたいと思います。

“あなたの死なれる所で私は死に、そこに葬られたいのです。もし死によっても私があなたから離れるようなことがあったら、主が幾重(いくえ)にも私を罰してくださるように。”

どんな悲しみや不幸があっても死以外は我々の家族を引き離すことができないという愛と責任ある告白ではありませんか。

我々の家庭が存在だけでなく、ともに分かち合い、そして死が我々を引き離すその時まで運命をともしする家庭となりますように切に祝福します。

今、皆さんの家族がいまの家庭で地獄をみているか、小さい天国見たいにみているかは当然、家族全員が努力しなければなりません。実は家庭の雰囲気を作っていくのは母なるみなさんにほぼかかっていると言っても過言ではないと思います。

異邦の女だったのにもかかわらず、神様を信じ、すばらしく家庭を守っていたルツから後代(こうだい)にあんな偉大なダビデ王が生まれ、そして神の御子イエスキリストがこの家紋を選んでお生まれになる祝福をいただきます。

家庭が大変な時、非難しないでください。主人を、妻を、親を、子どもを非難しないで、むしろ**“わたしのせいよ。わたしが間違ったわ。”**と告白しましょう。そして、ともに神を信じる信仰をしっかりと握って、信仰を立たせ、神様にあって家族がともに信仰と運命をともし、共に乗り越えて歩めるために共に祈る事の大切さを教えて頂きました。

今日のこの美しい信仰の母であるナオミと信仰の嫁であったルツの姿が我々の教会の母たち、よめたち、姉妹たちのみなさんとなり、もしこれからも苦しみや悲しみの中にあるとしても信仰によって乗り越え、同じ神の祝福を敬虔するみなさんにご家庭となりますようにますます救い主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン!

〈祈り〉

父なる神様! 我々の家庭が今幸せであるなら、さらに幸せになりますように祝福してください。

そして祝福される家庭をつくる為に神に祈り、頑張っている教会の全ての家庭の祈りと望みのどおりになりますように。

きずと寂しさの中に置かれている家庭があるなら、主よ、助けてくださって、その傷を癒し、回復させてください。

祈る母たちとなりますようにさらに健康を与え、智恵を与え、力づけてください。我々クリスチャンプレイズチャーチに集っているすべての家庭がさらに祝福され、小さい天国を味わう祝福の源となる家庭になりますよう主が助けてください。

すべてを主に感謝します。愛する主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン!